様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：３２２０６
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１９５４０

研究課題名（和文）看護基礎教育におけるケアリングの教育方法の基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental research on educational methods of caring in basic nursing education

研究代表者
佐藤　聖一（Sato, Seiichi）

国際医療福祉大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：１０６１０７９３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：ケアリングは看護の本質とも呼ばれ、基礎看護教育においても重要とされている。しかし、ケアリングは学生の看護観や倫理観に左右される情動的な内容を含み、その教育方法については、これまで、臨地実習中心とされ、講義におけるケアリングの教育方法は研究されてこなかった。
本研究では、情動教育が先行している教育学の教育方法に着目し、看護基礎教育におけるケアリングの教育への援用可能性について検討し、道徳教育とNarrative Based Medicineを援用することにより講義や演習によるケアリングの教育についての具体的な授業案を構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　これまでケアリングを学ぶのは実習とされてきた。実習は実際の対象者と学生が関わる中で、ケアしケアされる関係性を構築できることでケアリングの学びが達成されるためである。しかし、近年の入院期間の短縮化や学生の状況など学びに影響する要因が多い実習では、学生が必ずしもケアリングを学ぶことができるのか担保できない現状にある。
　そこで、本研究では、授業者の環境・状況要因を調整でき、全ての学生が学びの機会が保てる学内で行われる講義、演習で活用できるNarrative Based Medicineを基盤としたケアリング教育の方法を構築できたことは、基礎看護学教育、臨床看護においても重要な意義をもつと考える。

研究成果の概要（英文）：Caring, also known as the essence of nursing, is considered important in basic nursing education. However, caring encompasses emotional aspects that can be influenced by students' views on nursing and ethics. Thus, the educational methods for teaching caring have traditionally focused on clinical practice, and teaching caring in lectures has not been extensively studied.

This study focuses on educational methods in the field of education, where emotional education has been prioritized. It examines the potential application of emotional education to the teaching of caring in basic nursing education. By incorporating moral education and Narrative Based Medicine, specific lesson plans for teaching caring through lectures and exercises have been developed.

研究分野：看護教育学

キーワード：ケアリング　ケアリング教育　看護基礎教育　基礎看護学教育　教育方法　教育理論

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

近年、人間関係の希薄化が社会的な問題となっている。本来、社会的な生物である人間にとって、人間関係は基本的なスキルでありニーズであったはずである。しかしながら、この変化は、現代人が密接な人間関係を求めていないのではなく、人間関係のあり方が変化して来たことに由来する。人と人との関係性の変化は医療・看護の領域でも問題となっている。医療の発達や高度医療の細分化によって健康寿命の伸展や健康促進が急速にはかられてきた。

しかし、医療の高度化・細分化は、患者と医療従事者の関係性を疎遠なものとしてきた。医療従事者の、患者へ向けるまなざしは、患者自身ではなく身体の部分について向けられるようになり、多くの病院では、医療の高度化にともなう、システム化により、医療従事者はケアすることが機械的なものとなっていった。

このような現状を反省し、医療・看護の本来的なあり方を取り戻すために、近年では、患者主体の医療についての議論がなされるようになってきている。その議論の概念の一つに、ケアリングがある。ケアリング概念の認識について樋口は「ケアリングという人間の行為は、人類始まって以来現在まで、人と人との間に常に存在していた。しかし、ケアリングというという現象は、非常に密接な人間と人間の関係の中で起こり、且つ主観的な表現であるため、その効果を計るのは難しい。そのため、これまであまり深く追求されてこなかった」[1)]。と述べる。

近代社会の反省の下、ケアリング概念の復興が論議されるなかにあって、ケアリングは様々な領域において論議されてきているが、その概念は明確となっていない。看護におけるケアリングの代表的な研究者であるレイニンガーは、看護の本質はケアリングであると述べており、ケアリングが看護の中心的な概念の一つであることが浸透しつつある。

しかし、看護においてケアリングが看護の本質であるのか、また看護におけるケアリングの所在もまだ、明らかとなっていない。さらに、ケアリングが看護の中心的な概念であるならば、ケアリングは、これから看護師を目指す看護学生にとっても、重要な概念の一つであろうし、身に着けたいものの一つである。

このように、ケアリングは教育や看護において重要性と必要性が高まりつつある中心的な概念のひとつである。では、これまで看護におけるケアリングについての研究はどのようにされてきたであろうか。

筒井は看護学におけるケアリングの概観を調査した研究において、ケアリング研究は各領域によって研究が進められており、看護学以外ではメイヤロフ、ノディングスらを代表的な研究者としてあげており、看護の領域ではレイニンガー、ワトソン、ベナーらが代表的な研究者として彼女らの看護論やケアリング論が看護において中心的な位置を占めていると述べている[2)]。

また、日本の看護におけるケアリングの研究動向では、ケアリングが看護に必要不可欠な要素であるという認識に立ち、実際の患者と関わるなかで学生がどのようにケアリングを感じ取っているのかを明らかにする研究が行われており、看護におけるケアリングの教育についての関心は非常に高い[3)]。しかし、これまでの看護基礎教育におけるケアリングの先行研究では、学生の臨地実習体験やレポート記述などから学生がどのようなケアリングに結びつく経験をしているのかについての研究は様々な視点から行われているが、学生にどのようにケアリングが教えられているのかについて明らかにしようとした研究はなかった。

２．研究の目的

ケアリングの教育は学生のもつ看護に対する倫理観や看護観に左右されると考える。そのため、看護基礎教育におけるケアリングの教育について、これまでの実習などの経験主義的な手法だけに頼るのではなく、教育学の視点から論考し、学生のケアリングを育むためには、学生の倫理観や看護観の育成が必要であると考え、これらを講義や演習のなかでどのように教授したらよいのかという問題意識を持ち本研究の構想に至った。

本研究では、ケアリングを教育するための方法論について論考し、そのうえで具体的な授業案や授業実践方法について明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

1）看護基礎教育における倫理観や看護観に関する教育の現状と課題

文献調査を行い、看護基礎教育における倫理や情動に関する教育について理論的な背景や具体的な教育方法の集積の視点からの分析を行い、看護基礎教育における倫理教育や看護観に関する教育の要点と課題について明らかにする。

2）教育学における道徳観の教育についての考察－看護基礎教育におけるケアリングの教育への援用可能性－

教育学では以前より倫理観や道徳観といった情動教育についての研究が先進している。

その中でも近年、学生の主体性な学びを引き出すための具体的な方法としてアクティブラ

ーニングやファシリテーションといった具体的な方法論の研究が行われている。これらの指導方法や授業案についての先行研究を分析すると共に、特にファシリテーションを活用した教育方法についての研究会へ参加し、看護学への援用の可能性と具体的な教育方法、教育スキルについての示唆を得る。

3）看護基礎教育におけるケアリングの教育方法

1）と2）の研究結果を基に、看護基礎教育においてケアリングを教育するための方法論について論考し、具体的な授業案や授業実践方法について明らかにする。

4）研究計画の実行にともなう考慮事項

本研究は個人で行う文献研究であるため、研究結果に一般性を確保するために、定期的に学会発表や論文投稿などのピアレビューを活用する。

また、研修会などで得た知識や技術については、現在受け持つ授業などで積極的に活用することで学生の反応や授業構成のイメージをつかみ具体的な授業案の構築に反映させる。

４．研究成果

先行研究の調査、道徳教育の援用性、Narrative Based Medicine の活用、ファシリテーション技法の導入といったこれまでの研究成果からケアリング理論に基づき、具体的な授業案を作成し、実践を行った。その実践データを分析することで、論文化の方向性を確認した。

また、学生の学びの分析から、ケアリングに関する要件を見出し、その要件を教授する方策として道徳教育の方法を取り入れることや、Narrative Based Medicine の活用、ファシリテーション技法の活用についての必要性が確認された。

この過程に関して、研究期間において、研究の進捗にそって成果を日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本看護学会、看護教育研究学会、国際医療福祉大学学会への学会発表や論文投稿することで研究結果を公表した。学会発表では、看護基礎教育実践者や、研究者からの質疑応答やディスカッション、情報共有を通してケアリングの教育方法の確立の必要性や重要性について確認することができた。また、教育学的視点によるケアリング研究の基礎的研究として、看護におけるファシリテーションの活用状況についての研究成果を論文として京都女子大学生活福祉学科紀要に投稿、採択され公開した。

これらの過程や結果を通して得た知見により、本研究では、授業者の環境・状況要因を調整でき、全ての学生が学びの機会が保てる学内で行われる講義、演習で活用できる Narrative Based Medicine を基盤としたケアリング教育（Caring education using Narrative Based Medicine）の方法を構築した。

具体的な方法として、ケアリングに基づく相互成長の描写がある課題図書を読み、学生主体のグループディスカッションと、意見交換、教師によるファシリテーションとリフレクションを受けたうえで、授業全体を通して考えたことを文章記述することで、学生自身の考えを再構成できるように構成した授業を考案した。

また、カリキュラム構成としてはケアリングの概念を「看護理論」などの１年生初期の講義で教授、「基礎看護学概論」において、課題やグループワーク、レポート作成から、ケアリングについて学生自身で想起、再構成できる授業を実施。

さらに、「日常生活援助」や「フィジカルアセスメント」などの演習において、患者設定や患者、看護師双方の体験を行う演習を実施し、ケアしケアされる体験を、具体的なイメージと共にケアリングを意図的に学生自身がリフレクションできるよう設定した演習を行った。その上で、これまでの学修を通した経験からの学びをレポートという形で表出することで、学生自身がケアリングについて、思考したり悩んだりする過程を通して、ケアリングの学びを得る。

引用文献

1）樋口康子：ヒューマン・ケアリングの哲学的側面,日本科学学会誌,Vol.12,(4),1992.
2）筒井真由美：看護学におけるケアリングの現在 概説と展望,看護研究,Vol 44,No.2, pp.115-128,2011.
3)安酸史子：ケアリングをいかにして教育するか,看護研究,44 (2),p.178, 2011.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 佐藤聖一、田代恵美、柿沼加奈恵、岩﨑保之	４．巻 第17号
２．論文標題 Bibliographic research for the utilization of facilitation in basic nursing education	５．発行年 2022年
３．雑誌名 京都女子大学生活福祉学科紀要	６．最初と最後の頁 71-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐藤聖一、阿久津滝子、岩﨑保之	４．巻 第16号
２．論文標題 クーゼのケアリング論に対する批判的検討―ノディングスとの対比において―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 京都女子大学生活福祉学科紀要	６．最初と最後の頁 39ー46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計19件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 看護大学初学年者に対する早期Narrative Based Medicine活用における教育効果の検討
３．学会等名 日本看護教育学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 道徳教育の方法論を活用した 看護学生へのケアリング力育成の検討
３．学会等名 国際医療福祉大学学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 オンライン授業における演習科目展開についての考察 ~「ヒューマンスキル演習(HSP)」における科目展開と実践の評価~
３．学会等名 国際医療福祉大学学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 看護におけるファシリテーションの年代別文献内容の分析
３．学会等名 国際医療福祉大学学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 ケアリング能力育成の教育方法についての一考察 ノディングスのケアリング教育とフロムの愛することの技術の関連から
３．学会等名 日本看護学会学術集会　看護教育
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 患者体験型技術演習からの学び
３．学会等名 日本看護学会学術集会　看護教育
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 「ヒューマンスキル演習（Human skill practice）」を通して学生が考えたことからみる学び
３．学会等名 看護教育研究学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 入学後早期の看護大学初学年者に対する 「ヒューマンスキル演習（Human skill practice）」の教育効果
３．学会等名 日本看護科学学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 柿沼加奈恵、田代恵美、佐藤聖一
２．発表標題 我が国の看護基礎教育におけるファリシテーションの活用
３．学会等名 日本看護科学学会
４．発表年 2021年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 道徳教育の視座から考える看護基礎教育におけるケアリングの教育方法についての一考察
３．学会等名 日本看護倫理学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 道徳教育の方法論を援用したケアリングの教育方法に関する一考察
３．学会等名 日本看護学教育学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 ケアリングに対する批判的視座の検討
３．学会等名 国際医療福祉大学学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 クーゼのケアリング論に対する批判的検討―ノディングスとの対比において―
３．学会等名 看護教育研究学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 我が国の看護におけるファリシテーション活用に関する文献的検討
３．学会等名 日本看護科学学会
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 成人看護学急性期実習を経験した看護学生の自己成長感の特徴
３．学会等名 日本看護学会　看護教育
４．発表年 2020年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 メイヤロフとノディングスのケアリング論から考えるケアリング概念の再評価
３．学会等名 国際医療福祉大学学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 ノディングスのケアリング論から考えるケアリングの教育方法の一考察
３．学会等名 看護教育研究学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 患者体験型フィジカルアセスメント演習を経験した学生が考えた今後の課題
３．学会等名 日本看護学教育学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 佐藤聖一
２．発表標題 患者体験型フィジカルアセスメント演習における学生の患者役からの学び
３．学会等名 日本看護科学学会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関